

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：一般社団法人しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市真田町長 6918-1
評価実施期間：令和元年7月1日から令和元年12月20日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060972 060672 050231	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和元年9月現在）

事業所名：木曾町立 開田保育園 (施設名)	種別：公立保育園
代表者氏名：木曾町長 原 久仁男 (管理者氏名)(開田保育園長 田口 千津)	定員(利用人数)： 30名
設置主体：木曾町 経営主体：木曾町	開設(指定)年月日： 平成17年 6月 1日
所在地：〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 2792	
電話番号：0264-42-1212	FAX番号：0264-42-1213
ホームページアドレス： <a href="https://www.town-kiso.com/kodomo/hoikuen/">https://www.town-kiso.com/kodomo/hoikuen/</a>	
職員数	常勤職員： 11名 (保育士) 13名 非常勤職員 7名 (給食調理員) 5名
専門職員	
施設・設備 の概要	(居室数) 10 (設備等) 保育室・調理室・職員室・遊戯室 沐浴室・支援センター・会議室・休憩室

### 3 理念・基本方針

生きる力の基礎を育む ～生きる力の基礎を身につけた子ども～
① いきいきと遊ぶ子ども 様々な環境に積極的にかかわり夢中になって遊ぶ子ども
② 豊かな心を持った子ども 友だちを思いやり人とのつながりを大切にする子ども
③ 元気でたくましい子ども 心も体もしなやかでたくましい子ども

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

(園開放) 未就園の親子に園を開放し交流したり遊んでもらう中で相談に乗ったりする。 (保育参加) 保護者に保育士体験をしてもらい子どもの育ちや子育ての楽しさをしてもらう。 (社協・地域の方々を含めた様々な交流) いろいろな年代と交流を持ち優しさや温かさを感じ思いやりの心を育んだり、地域の食物や特性を知る。 (ALT) 外国人教師と生活する中で異文化に触れ視野を広げる。 (運動遊び教室) 専門の指導員により月1回年齢にあった運動プログラムを子どもと行い 健康な体作りをする。 (おじいちゃん先生) 世代の違うおじいちゃん先生と触れ合うことで 子ども達が昔からの知恵を教えてもらったり 受け入れてもらえる安心感を味わう。
---

### 5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回初受審
---------------	-------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### <環境を生かした保育>

「信州型やま保育」の認定を受け、自然豊かな環境を生かした異年齢保育に取り組んでいます。お散歩では、誘い合っ出て出かけ、遊びの中での異年齢の友だちとの関わりにも配慮しています。また、園庭での遊び、畑づくり、行事など相互に教え合い、学び合い、気遣いなどそれぞれのペースで成長していく姿がみられます。長靴に履き替えて、お散歩に出かけての土手すべり、園庭の築山では一輪車を押して器用に操りながら上り下りを軽くこなし、バランス感覚は抜群です。年長さんがリーダーシップをとって、子ども主体に遊びや行事も進め、そんな毎日を安全・安心して過ごすためにも、職員の連携や準備は欠かせません。危機管理として、応急処置の講習は春に職員を四グループに分けて、全職員が訓練を交代で参加しています。保護者も、そんな子どもの姿、保育園での活動に理解を示しています。

#### <地域の方々と共に、野菜作り・郷土食作りの取組み>

散歩で牧場に出掛け牛の動きを興味深く見て、排せつの様子に驚き、馬耕の見学などから、子どもたちは、畑作りに興味・関心を持つきっかけとなっています。園庭横の畑では、耕したり、マルチをかけたり等、地域の方から畑作りの協力があり、子どもたちは、地域の方に対して感謝する気持ちを持ち、身近な存在になっています。牧場の〇〇さん、××さんちの白菜、果物など自然に固有名詞が子どもの会話から聞こえてきます。畑で作りたい作物を年少さんも含めてみんなで出し合い、バスで農協に出掛けて農協の△△さんから保育園の畑で育てられる野菜のアドバイスをを受け、種と苗を購入しています。子どもたちと地域の方が協同して育てた野菜は、給食の食材になっています。

隣接の高齢者施設に出掛けて味噌づくり、ほう葉巻作りに参加してきましたが、今年度からは地域の方の指導を受けながら保育園で行っています。自分たちの作った味噌を使った給食のみそ汁を自慢しています。秋に畑で収穫した葉ですんき漬を作る機会もあり、郷土の食に関する意識を高めています。地域の畑に足を運び、地域の方々の生活に触れ、地域の方々と一緒に食育に取り組んでいます。

### ◇特に改善する必要があると思う点

#### <継続した標準的な実施方法の取組みに期待します>

標準的な実施方法の見直しの中で「保育ハンドブック」が作られました。内容は、保育士としての心得、危機管理、保護者に対する支援、虐待の発見、施設内研修（職員研修、自己評価）職員としての心得、保育基本事項（育児行為マニュアル）等が整備されています。年度末に各保育園から出された意見にもとづいて園長会で見直しを行っています。標準的な実施方法は、保育の実施時の留意点や子どもの保護者のプライバシーへの配慮、設備等の環境に応じた手順等も含まれ、保育全般にわたり定められることが求められ、職員が常に確認できる状況が望まれます。今後さらに、共通の項目として相談と苦情や意見、要望に対応する体制、ボランティアの受け入れ体制の検討、健康管理とその記録様式の見直し等が期待されます。

標準的な実施方法にもとづいた実践と評価を定期的に行い、生活環境を含めた子ども、保護者の状況の変化、職員、保護者からの意見や提案にもとづき標準的な実施方法の見直しをして、保育の質の向上、保護者の満足度を高めるために更なる取組みに期待します。

#### <保護者アンケートの取組みに期待したい>

保護者からの意見、要望等は、意見箱の設置、日常的に連絡帳、登降園時に保護者とのコミュニケーションで把握し、保護者会総会、クラス懇談会、個人懇談会等で保護者からの意見・要望等が把握されています。出された意見、要望等は検討し改善に向けています。保育参観で給食の試食会が行われアンケートを取り、給食に関する感想、要望が寄せられています。

子ども、保護者が願う保育は、保育園が一方的に判断することが困難であり、子どもがどれだけ満足しているか双方向性の観点が必要です。保育の内容、生活環境等、保育園全般に関する子ども、保護者の満足に対する意見を把握するためのアンケートの実施を組織的、定期的に行うことが大切です。アンケート結果にもとづいて保育の質の向上に結び付け、子ども、保護者の満足の向上に向けた取組みが期待されます。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（令和2年1月27日記載）

・第三者評価をして頂く中で、まだまだ多くの課題があることがわかり、自分たちの保育を見直すよい機会となりました。計画やマニュアルはあってもすべての職員が周知していない点も多く、確認の必要性を強く感じました。木曾町4園の共通課題もあり、園長主任会での検討・見直しの必要性も感じたところです。保護者対応については、より保護者の思いを知る方法としてアンケートの実施の必要性について気づかされ、今後も取り組んでいければと考えております。

又、やま保育の認定園として、園や地域の環境を生かした保育を理解して頂き嬉しく思いました。さらなるやま保育の周知に取り組んでいけたらと思います。開田ならではの保育環境・地域の方々とのつながりを大事にしていくことで、この地域に暮らす子どもたちが地域を知り、より親しみを持って成長できるような保育をしていけたらと思います。

木曾町立 開田保育園 園長 田口 千津